

7. 身近な取り組み

(1) 電気の選び方：「再エネ電力」に切り替える

- ・多くの電力会社が提供する「再エネ100%メニュー」や「実質再エネプラン」に加入することで、電力使用によるCO₂排出を実質ゼロにすることが可能。

(2) 住宅の省エネ化：断熱・高効率設備の導入

- ・断熱性を高めることで冷暖房エネルギーを削減。
- ・リフォーム補助金（例：住宅エコリフォーム支援事業）も活用可能。また高効率エアコン、エコキュート（ヒートポンプ給湯器）、LED照明への更新で光熱費も削減。

(3) 日常の移動を見直す：電動モビリティと公共交通の利用

- ・電気自動車（EV）やPHEV、電動自転車などを選択。
- ・短距離の移動には公共交通やシェアサイクルを活用。
- ・一部自治体ではEV購入への補助金や税制優遇あり（例：東京都のZEV補助金など）。

(4) 食生活でもCO₂削減を意識：地産地消・食品ロス削減

- ・地元で生産された食材を選ぶことで輸送にかかるCO₂をカット。
- ・食べ残しを減らし、冷蔵庫内の在庫管理を意識。
- ・ごみの排出量を減らす。

(5) 買い物と衣類の選び方：エシカル消費

- ・再生素材を使った製品（例：ペットボトル由来のリサイクル繊維）、または長く使えるものを選び「使い捨て」からの脱却を意識。
- ・古着のリユース、フリマアプリ（メルカリ等）活用も脱炭素行動の一部。
- ・マイ箸、マイバッグの使用で、使い捨て製品の消費を抑える。

(6) 家庭菜園やコンポスト：自宅でできる“炭素循環”

- ・ベランダ菜園や小さな畑での野菜づくりは、輸送エネルギーゼロのサステナブルな行動。
- ・生ごみを堆肥化（コンポスト）して土に返すことで、廃棄物削減&土壌炭素固定に貢献。

(7) 地域との連携・共創：自治体・学校・企業の取り組み参加

- ・自治体主催の環境ワークショップや再エネ地域電力プロジェクトに参加。
- ・子どもと一緒にエコスクールのイベントや体験教室に参加。
- ・近隣の企業や商店街と連携した「エコまちづくり」に関心を持つ。
- ・FSCマークなど環境に配慮した製品を選ぶ。